

学習内容報告書 フォーマット

学校名	只見町立只見小学校
授業者	酒井 里美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

木の名前を調べよう

1-2. 学年

第3学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習・理科・国語科

1-4. 単元の概要

第2単元「若葉を比べよう」では、ただみの森キャンプ場で樹木の若葉を観察し、その特徴を理解することができた。第3単元「田子倉湖散策」では、「滝はどこから流れてきているのか。」や「田子倉湖の水はなぜこんなに多いのか。」などの疑問を持つことができた。

本単元「木の名前を調べよう」では、町内の森に生育する樹木について調べ、樹木と水との関わりに気付くことがねらいである。下福井で昔から守り続けられてきたブナ林を活用し、児童が樹木に触れたり、葉の匂いを嗅いだりするなど五感を通して体験的・探究的活動に取り組み、樹木の役割を理解できるようにしていく。

その際、ゲストティーチャー（以下G T）に樹木について話を聞いたり、質問したりしながら学びを深めていく。下福井観察の森では、100年間ブナの木を切らずに沢水を守り続けている。この沢水の元は、ブナ林であり、雨や雪の水をため込んで沢ができ、川、海へと続き、蒸発してまた雨や雪となって陸地に降り注ぐ。その壮大な循環の大切な部分をブナ林は担っている。本時ではこのことに触れ、樹木と水との関わりにも気付かせていきたい。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

自然豊かな只見の四季について調べたり、体験したりすることを通して、地域の動物や植物を観察し、只見の自然の素晴らしさや厳しさを感じ、自分がその自然とどのように関わって生きていくのかについて考えることができる。本単元では、樹木と水との関係を知るとともに樹木を観察し、樹木の名前を知ること、どのような木々が森に生息しているかを理解することができる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

自然豊かな只見の四季について調べたり体験したりすることを通して、自分がその自然とどのように関わって生きていくのかについて考え、自分の言葉で表現することができる子どもの育成

1-7. 単元の展開（全8時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / 主な評価（アイウエ） ※外部連携 / ☆使用教材等
2	福井観察の森で樹木を観察する。	○ 樹木を観察しながら、只見では昔から樹木を木材や燃料として、木の実を食料として利用してきたことについて、G Tから話を聞く。 ※G T：ブナセンター職員 ウ 生育している樹木やその葉、林の様子に興味を持ち、意欲的に観察することができる。 (観 察)
1	自分の見つけた「森の木のひみつ」を整理する。	○「K J」法により分類・整理し、樹木と水が深い関わりを持つことに気づくことができるようにする。 イ 森で観察して分かったことや気付いたことを整理することができる。(付箋)
1	樹木と水との関わりについて話し合う。	○前時に見つけた「森の木のひみつ」を根拠に話し合うようにする。 ア 自分や友達が見つけた「森のひみつ」をもとに、樹木の役割について考えることができる。(観察・発言)
2	ただみの森キャンプ場で樹木を観察し、若葉のころの違いに気付く。	○前回観察した若葉の色や形がどのように変化しているか観察する。 ※G T：ブナセンター職員 ウ 生育している樹木に興味を持ち、主体的に観察に取り組むことができる。(観察)
1	「森の木のひみつ」をまとめる。	○調べてわかったことをポートフォリオにまとめる。国語科の「調べて書こうわたしのレポート」と関連させまとめさせることにする。 イ 図鑑等を利用してまとめることができる。(ワークシート)
1	「森の木のひみつ」を発表する。	○これまでに観察したり、調べたりしたことをもとに、友達にわかりやすく伝えられるようにする。 エ 友達の発表をもとに、樹木と水との関わりについて考えることができる。(観察・発言)

〈評価の観点〉

ア よりよく問題を解決する。

イ 学びやものの考え方

ウ 主体的、創造的、共同的に取り組む態度

エ 自己の生き方

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ


単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

樹木の種類や特徴、落ち葉の役割を知ることにより、樹木が水と深い関わりを持つことを理解することができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	○教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の活動を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 <input type="text" value="森の木のひみつとは？"/></p> <p>3 自分の見つけた「森の木のひみつ」を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪の重みで折れない。 ・ 落ち葉は蓋の役目を果たす。 ・ 日陰を作る。 </p> <p>4 「森の木のひみつ」を分類・整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉の役割について ・ 幹の役割について ・ 落ち葉の役割について </p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>5 本時を振り返り、次時の活動を確認する。</p>	<p>○ 下福井観察の森での活動を写真等で振り返り、本時のめあてにつなげる。</p> <p>○ 前時に書いた「森の木のひみつ」の付箋をもとに、森の木の秘密を解明するという意欲をもつことができるようにする。</p> <p>○ 前時にまとめた付箋を貼りながら森で見つけた自分の気づきを伝えられるようにする。</p> <p>○ 「森の木のひみつ」をKJ法により分類・整理し、樹木と水が深い関わりを持つことに気付くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分や友達が見つけた「森のひみつ」をもとに、樹木の役割について考えることができる。 (観察・発言)</p> </div> <p>○ 樹木と水との関係に気付くという発展的な学習ができるようにする。</p> <p>○ 本時の感想や今後調べてみたいことなどを記入し、発表する。</p> <p>○ 次時の活動を確認し、意欲を高める。</p>

3. 今回の活動の自己評価

- 理科「春のしぜんにとびだそう」での観察を生かして、今回の葉には葉脈があり、根から葉の先まで水を通すこと、やがて落ち葉が地面に堆積するとじめじめして水が湧き出てくることに気付かせることができた。
- 授業を展開する際、写真や土（腐葉土）・落ち葉などの実物を用意したことは、樹木と水との関係を考える上で有効であった
- 森の案内人の方々をゲストティチャーとして招き、説明を受けることで、樹木によって葉の大きさや形、木の模様が異なることを理解することができた。
- 単元全体を通して子どもたちが水を意識してきたことにより、樹木と水が深い関わりを持つことに気付くことができた。
- 理科や国語科などの他教科との関わりを持たせながら、学習を進めることができた。教科横断的な学習によって、子どもたちが主体的に学習に取り組み、学習の幅が広がった。先を見通し、計画を立てることは非常に大変であったが、1年間を通じて学習を見通し、つなげていくことの大切さを痛感した。



観察の森で、樹木の特徴の説明を受ける様子

4. 今後の課題

- 本時の学習の時間に「森のひみつ」を発表した後すぐ、葉や落ち葉などの役割についても触れてしまい、自分たちが見つけたひみつを共有・比較することができなかつたので、次時に葉や落ち葉の役割について詳しく調べたほうがよかった。
- 「森のひみつ」を分類する際、模造紙1枚に分類するのではなく、何枚かの画用紙に貼っていくとスムーズに分類・整理できたと思われる。
- 子どもたちの話し合いに沿った提示方法の工夫をする必要がある。
- ポートフォリオの仕方に工夫が必要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・自然に詳しい地域の方をGTに招き、単元を通してできるだけ協力を得て、授業を展開したほうがいい。
- ・四季を通して継続的に体験活動を行うことで、自然の移り変わりを感じたり、自分たちの身近な自然に対し愛着をもったりすることができる。
- ・自然には危険な動植物も多いので、安全面（服装・行動）には十分留意する。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。